



[米寿記念作品展](#)



[米寿記念作品展](#)

書道家の戸塚彩翠(章次)さんは現在88歳。今年4月に米寿記念作品展を自宅近くのアトリエ & ギャラリー「ウイステリア」で開きました。

戸塚さんは現在「東海書道会」の掛翠支部の支部長として掛川市内で書道教室を開いています。また、景雲社にも所属し展覧会や勉強会等を通じて今でも研鑽を積まれています。教室には今回出展された作品が所狭しと保管されていました。その場所で取材させていただきました。

戸塚さんが書道を始めたきっかけはとてもユニークです。サラリーマン時代の35歳の時、職場で毛筆を使って看板や賞状を書く機会が多かった為、書道を本格的に勉強してみようと思ったのが始まりです。以来53年間書道に勤しんで来ました。

さらに、45歳の頃、尺八を習い始めました。当初は虚無僧が吹く琴古流の勉強をしていましたが、途中から民謡で吹く尺八を勉強することになり、現在は浜松参勇民謡勇南会に所属しています。また、ハーモニカの勉強もされ尺八とハーモニカの演奏でボランティア活動として各施設へ慰問にも行きました。



[米寿記念作品展](#)



[米寿記念作品展](#)

そして60歳の定年を迎え、書と日本画のコラボ作品を書こうと思い、日本画の勉強も始めました。今では毎年、干支の絵と新年のご挨拶を入れた年賀状を2~3種類作り出状しています。写真の作品が今回の展覧会にも出品された一部の作品です。年賀状を受け取られた方には毎年大変喜ばれています。



[米寿記念作品展](#)



[ota②](#)

ここで今回の米寿記念作品展の一部をご紹介します。
 写真の作品は2点とも戸塚家の菩提寺である法泉寺(掛川市上西郷)に寄贈した作品です。

「百七福」(半切の掛け軸)はとても縁起が良い作品で、上部に七福神の絵が描いてあり、その下部には「福」という文字が百字書いてあります。金泥で書いています。(右の写真)

このような大作を書くにはまず精神統一が一番難しいです。また、調子が出ないと書けないので、作品を仕上げるには相当の日数が必要です。それだけに作品が出来上がった時の喜びは一入です。



[米寿記念作品展](#)



[米寿記念作品展](#)

両方とも「無」という字です。



[米寿記念作品展](#)

「愛」



[米寿記念作品展](#)

「花鳥風月」



[米寿記念作品展](#)
「少年易老学難成」



[米寿記念作品展](#)
「一寸光陰不可輕」



[米寿記念作品展](#)
「健」



[米寿記念作品展](#)
「喜」



[米寿記念作品展](#)
「謝」

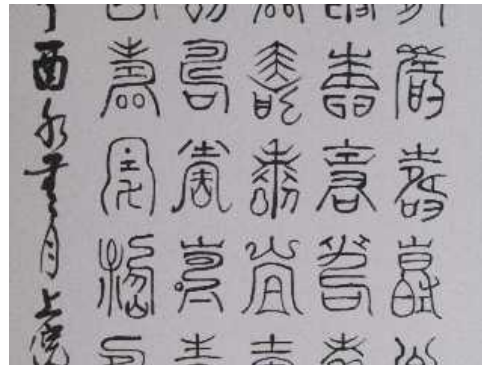
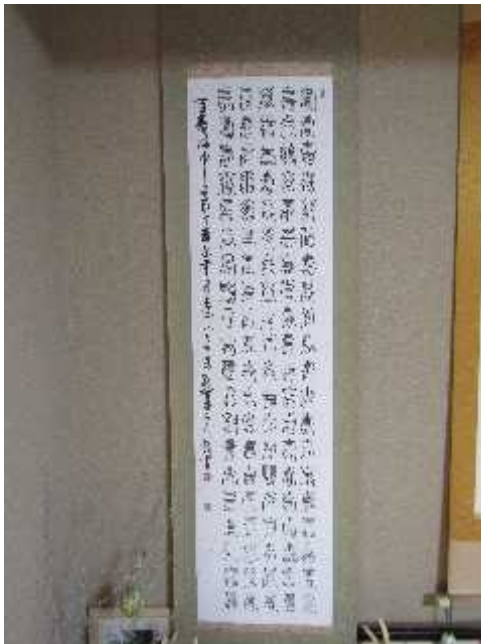


[米寿記念作品展](#)

最近では賞状を書いたり賞状の名入れの依頼が年々増え、結構忙しい日々になっています。現在、シニアクラブから金婚祝いの賞状が30枚、ダイヤモンド婚祝いの賞状が19枚、さらに名入れの賞状が105枚、米寿・喜寿祝いの賞状や市役所からはトランポリン大会の賞状などの依頼があります。忙しい毎

日ですが、「書くことが生きがいでもあり健康維持でもある」という戸塚さんには忙しさも苦にはなりません。

今では週1回のグランドゴルフを楽しみながら、毎日自家製のヨーグルトを食べて、人に書道を享受しながら自分も書を楽しんでいます。また、結婚62年目でもあり既にダイヤモンド婚をお祝いし、65周年（ブルーサファイヤ婚）、70周年（プラチナ婚）に向けご夫婦で健康に留意しながら余生を送っています。



[米寿記念作品展](#)

最後に自宅の床の間に「百壽」^{ota①}の掛け軸が掛けてあるというので拝見させていただきました。(写真)「寿」という字が百字書いてあります。

88歳という記念すべき年にご自分の生き様を作品展という形で表現出来ることの素晴らしさを教えていただきました。これからも楽しんで書画を書き続け、人の心をいつまでも和ませて下さい。

小笠・榛南地区 生きがい特派員 高井 豊